



2017 年4月3日

2017年度入社式 社長挨拶

第一生命ホールディングス株式会社(社長:稲垣 精二)は、2017 年4月3日(月)に入社式を行いました。
社長挨拶の主旨について、別紙の通りお知らせ致します。

2017 年4月1日新入社員(予定)

第一生命・第一フロンティア生命・ネオファースト生命	1, 016名
第一生命情報システム	29名
第一生命チャレンジド	18名

計 1, 063名

未来へ走る、真っ先に。未来をつくる、真っ直ぐに。

新入社員の皆さん、ご入社おめでとうございます。皆さんを心から歓迎します。

医師であった第一生命の創業者 矢野恒太が「生命保険」を知ったのは 24 歳、ちょうど皆さんの年の頃です。それから理想の生命保険会社を求めてドイツで学んだ後、保険業法の起草に自ら携わるなど、真っ直ぐに挑戦を続けました。第一生命は、明治時代に、皆さんと同じ若者が理想と夢を持って挑戦を続けた結果、生まれた会社です。皆さんにも理想と夢を大切にしてほしいと思います。皆さんが思い描いた理想と夢、その実現に向けた挑戦こそが、第一生命グループの真っ直ぐな未来をつくります。

第一生命では、この創業者の「**最大たるより最良たれ**」という言葉が脈々と受け継がれています。

「**最大**」であることにはゴールがありますが、「**最良**」であることには、ゴールがありません。「**最良**」であるためには、社会や環境の変化に合わせて、私たち自身が変わり続ける必要があるのです。そして今、社会や環境の変化は加速度的にスピードを増し、これまでの経験からは予測できない、不連続な変化がグローバルに起こっていく、そんな時代を迎えようとしています。その中で第一生命グループは、日々挑戦を続けています。例えば、保険とテクノロジーを融合した「InsTech」の推進や、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、海外生保事業、アセットマネジメント事業など、様々な分野における挑戦です。このように、「**最良**」を目指すうえで、変化に合わせるのではなく、むしろ、自ら変革をリードしていきたいと考えています。

先日、お客さま本位の取組みを一層強化するために「お客さま第一の業務運営方針」を策定しました。これは第一生命グループとして、お客さまに「真っ直ぐに」向き合い、ベストを尽くしているかということが求められているということです。第一生命は、創業当時から経営理念として「**お客さま第一主義**」を掲げ、お客さまの声に真摯に向き合う取組みを行ってきました。同時に、それを支える経営品質経営や生涯設計戦略という経営のフレームワークも時代に合わせて進化させてきました。今後も、創業者から引き継いだ「**変革のDNA**」をもって、**徹底したお客さま本位の姿勢で、お客さまに「真っ直ぐに」向き合い、強い信念で「真っ先に」変革を実行していきたいと考えています**。そして、これこそが、私たちが目指す「**安心の最高峰**」への確かな道筋であると確信しています。

2020 年は、第一生命グループにとって株式会社化・上場「**新創業**」から 10 周年に当たる節目の年です。そこで 2020 年までの中期ビジョンとして「**安心の最高峰を、地域へ、世界へ**」を掲げています。「**一生涯のパートナー**」として、それぞれの地域で、お客さまに安心の最高峰をお届けし、その結果としてグローバル保険グループを目指していこうというものです。世界 7 か国で活躍する第一生命グループ 7 万名の仲間たち一人ひとりが、お客さまのためにベストを尽くし、「共に尊重し、共に学びあい、共に成長する」。それがグループ独自の強みとなって昇華していくのです。ただし、それには皆さんのように柔軟な発想で組織に新風を吹き込んでくれる人財が欠かせません。

ゴールのない「**最良**」を目指す第一生命グループの事業は、次の走者に襷をつないでいくチーム競技、駅伝と重なります。今日、皆さんは創業者からつながれてきた襷を受け取りました。その襷には、創業者の理想と夢、たくさんの先輩方が「**最良**」を目指して積み重ねてきた努力が託されています。新入社員の皆さんが未来へ真っ先に、真っ直ぐに走り、柔軟な発想でそれぞれの所属に新風を吹き込み、大活躍されることを期待しています。